

924 Open Symposium

SOCIETY OF HUNTER-GATHERERS AND THEIR VIOLENCE

狩猟採集民と暴力

M. Ichikawa 市川 光雄

Kyoto University 京都大学名誉教授

Presenter's Email: ichikawamitsuo@gmail.com

ヒト以外の霊長類社会における「暴力」は、もっぱら「食物」と「性」すなわち繁殖をめぐる起きると言われる。人間社会でも他者との競争に伴う争いは随所に見られるが、特筆すべき点は、集団間の争いがさまざまな文化的装置によって鼓舞され、また「妬み」や「憎しみ」、「恥」や「名誉」などの感情を動員させながら、熾烈な戦争へと発展することである。こうした他者（他集団）に対する「暴力」は、他者を峻別し、排除する論理に基づいている。

狩猟採集民は、「ハームレス（無害な）」あるいは「非暴力的」な人びとと言われる。彼らの社会にも食物や性をめぐる葛藤はあるが、それらが致命的な争いや、大規模な戦争に発展することはごく少ない。それは彼らの社会に、資源（＝財）をめぐる「潜在的競争」を表面化させ、激化させないような「仕組み」が備わっているからだと考えられる。彼らはどのようにして闘争の激化を回避し、他者を受け入れているか。狩猟採集社会における財産と地位、すなわち経済と政治のありかたから考えてみたい。また現在、これらの社会が直面している危機についても指摘しておきたい。